早春の須磨アルプス　馬の背を久しぶりに歩きました

. 横尾から馬の背への谷筋　旧道直登ルートを見つけました　　2011.2.23.

1103umanose00.htm　by Mutsu Nakanishi

【WMV 動画】　早春の須磨アルプス　馬の背　2011.2.23.

【須磨アルプス　馬の背】

【須磨アルプス　馬の背 直登ルート】

ポカポカ陽気に誘われて、自宅の南に広がる西六甲をぶらぶら歩きを楽しんでいる。
山裾から 30 分も歩けば、山の稜線に出られ、春になると梅林に梅が咲き、野鳥がさえずり きらきらと輝く明石海峡を眺めながらの山上散歩。

また、須磨アルプスと呼ばれる横尾山と東山の縦走路は「馬の背」と言われる荒々しい岩稜の縦走路で、高山に登った気分が味わえる。 春の訪れを一番先に見届けられる散歩コース。

この辺りは 六甲山脈が明石海峡に落ちる花崗岩の険しい山が壁となる 摂津/播磨の国境 。山は低いのですが、海岸まで急峻な山が続き、摂津/播磨の難所で かつては陸路を海岸沿いを通るのは難しく、山に入ってこの急峻な山を越える道が幾つもあったと聞く。

「須磨の関」があり、「源平一の谷」「鵯越」と歴史の舞台になった古道が幾つもあった。
道が改良されたとはいえ、須磨海岸では急峻な山と海との狭い間を国道 2 号線・JR 山陽線・山陽電車がすり抜ける。逆に眼前に明石海峡と淡路島が一望の景色の良いところでもある。

この急峻な山並の象徴が 須磨アルプス馬の背の岩稜の縦走路。毎日眺める山並みの中に険しい岩稜が潜んでいるとは思えないのですが‥‥

摂津/播磨の国境の壁 須磨海岸を斜めに北東から南西に走る須磨アルプス 東山と横尾山を結ぶ痩せ尾根 急峻な岩稜の縦走路が続「馬の背」 毎日眺めるこのなだらかな緑の小さな山が急峻な岩稜を連寝ているなどとても思えない。

この馬の背の岩壁を北から南へ越えて須磨海岸へ出る道がつい最近まであったと聞くのですが、もうよく判らない。

確かに馬の背の縦走路を歩くと横尾山の急峻な崖道を下りきった狭い尾根筋 南北両側がキツイ谷に切れ落ちた鞍部には谷越え（乗越）で南の須磨海岸に抜ける標識があるのですが、北

側は急峻な岩が谷へ切れ落ちている鎖場でよく判らない。 北側から谷を登ってくる道を探そうとこの北山麓を巻いて東西に延びる散策路「横尾道」を歩いて　山への枝道を見つけては入ってゆくのですが、この馬の背乗越の直登ルートを見つけられず。
つい先日　東山への登り口の少し西　雑木が続くずくずくの谷川にずっと奥へ踏み跡がつついているのを見つけました。
散策路と東山ハイキング道をつなぐ枝道がこの谷川から横に抜けてゆくので、見過ごしていた踏み跡。 少し奥へ入ると真直ぐ谷をつめてゆく旧道が残っていました。

靴を履き替えて　2 月 23 日　この道にはいりました。 馬の背へ出れなくても　谷の中から馬の背の岩稜を見渡せるだろう…と。
ちょろちょろとザレの中を水が流れる谷川の中　狭い一本の谷筋で　間違うことはない。　急峻な岩尾根になれば　引き返そうと。
谷筋に入って　視界の開けない中　雑木とゴロゴロ岩の間を 15 分ほど登ると雑木の上に岩山が飛び出しているのが見え、 道はこの岩山へ。 この岩山の上方で、不意に横尾山の急峻な鉄梯子を上っている人たちがすぐそこに見える。 岩の向こう側で人の話声。もうそこが馬の背の縦走路。
ここからが一番の難所　一枚岩に鎖が取り付けられ、真直ぐ下に切れ落ちた岩山を鎖にしがみつきながらトラバースすると縦走路。
すぐ下に乗越の道標が見える。　間違いなく　この道が昔からの馬の背乗越の旧道。

須磨アルプス　馬の背乗越谷筋ルートの旧道で　　2011.2.23.

縦走路から登ってきた谷側を見ると鎖場の向こうは切れ落ちた谷登ってきたみちは見えず。
とてもとても　知らないと　ここを入ってゆこうとは思わない。
（　後日談ですが、この須磨アルプスを歩きなれたハイカーは　この乗越道をやはりよく知っていて、マムシが多いので　注意と）
ここからは　久しぶりに　馬の背の景観を楽しみながらの痩せ尾根縦走路を東山へ。

須磨アルプス　馬の背　六甲全山縦走路で　2011.2.23

やっと見つけた馬の背乗越の縦走路

右手に須磨の海　左手に　須磨の団地群の向こうに　播州から裏六甲の山々　足元はには荒々しい花崗岩むき出しの岩稜

ぶらぶらと春の須磨　山上散歩を　　楽しみながら　東山から　横尾・妙法寺駅へ降りてきました。

思い入れ一杯の須磨アルプス
花崗岩むき出しの痩せ尾根歩きですが、「須磨の春」
今日から　神戸春の風物詩　いかなご漁も解禁
スライド動画にしましたので、
神戸　春の便り　ご覧ください

2011.3.3.　by Mutsu Nakanishi

弥生3月　　春がもうそこまで

春の日差しを受けて　きらきらと光る明石海峡
間もなく　春の風物詩　いかなご漁もはじまる

自宅のある若草町から正面に見る六甲全山縦走路　須磨アルプス
東山と横尾山の間の「馬の背」は南北に切れ落ちた岩尾根
この馬の背をまっすぐ南へ超えて南の須磨へ出る旧道がかつてあった

一度　この旧道を歩いて　馬の背の岩尾根を乗越したいと
時折　山裾の横尾道をあるいては　この谷越え道を探していました

先日　一番東山に近い位置から真直ぐ馬の背へ登る谷筋に踏み跡があるのをみつけ、この谷筋の旧道から馬の背へ登りました

2011. 2. 23.

若草町から見る須磨アルプス　東山/馬の背/横尾山

六甲全山縱走路　須磨アルプス

東山↓

馬の背↓

横尾山↓

若草町より　2011.3.2.

若草町から見る須磨アルプス　中央が馬の背

須磨アルプス　馬の背　2011. 2. 23.

妙法寺側から真直ぐ谷をつめる旧道の踏み跡をみつけ
北から南へ須磨アルプス馬の背越えにトライしました

300
200
100
50
妙法寺駅
須磨アルプス登り口
馬の背直登谷入口
馬の背への谷筋
峠・鞍部
馬の背
東山
六甲全山縦走路
東山尾根道
東山登り口
須磨アルプス登り口
須磨アルプス 馬の背
妙法寺から須磨アルプス馬の背へ
直登の谷をつめる
2011.2.2011.2.23.
距離 3.043km
沿面距離 3.084km

横尾山側
北側
妙法寺からの谷
須磨月見山への谷
南側
六甲全山縦走路・須磨アルプス　馬の背
東山側

妙法寺　横尾道
須磨アルプス東山登り口

馬の背から切れ落ちる谷への入口

馬の背から切れ落ちる谷への入口
谷の奥へ旧道の踏み跡が続く

谷の上部　ゴロゴロの風化した岩の間を登る

谷の西側の岩壁が見えてくるが　相変わらず視界の開けぬ灌木の中

岩を幾つか登ると　突然　　岩尾根を下る横尾山側の全山縦走路がすぐ前に

須磨アルプス　全山縦走路　横尾山側の梯子

谷の最後は鎖を頼りに登り、岩壁の縁を回り込んで縦走路へ

縦走路に出る最後の詰めだけが鎖が頼りの厳しい岩登り
ここは縦走路側からは下りたくない場所　知らないと縦走路からは行けぬ

全山縦走路　馬の背と横尾山の鞍部　　須磨への谷下りの道標がクロス
全山縦走路と妙法寺/須磨　乗越の旧道の十字路

←高麗山・妙法寺駅
金山峡走路

馬の背から東山へ　東への狭い岩場が続く稜線の全山縦走路

鞍部から西　横尾山への縦走路

登ってきた北の妙法寺駅側の急峻な谷

鞍部から西　横尾山への縦走路　鉄梯子

縦走路北側登ってきた妙法寺駅側の急峻な谷

縦走路北側　登ってきた妙法寺駅側の急峻な谷

正面　東山へ　馬の背の狭い稜線縦走路が続く

馬の背　南北両側が切れ落ちた狭い稜線縦走路

馬の背縦走路より　北側の谷から妙法寺駅 横尾団地

馬の背の狭い稜線縦走路が東の横尾山へ続く

馬の背の狭い稜線縦走路が東の横尾山へ続く

馬の背の狭い稜線縦走路が東の横尾山へ続く

馬の背を抜けると縦走路はなだらかな灌木の中へ

縦走路の南側に須磨の海が見える

全山縱走

東山山頂

山道には「相思鳥」が飛び出し　餌をつつく

綺麗な鳥ですが、野鳥でなく　外来種で駆除鳥に指定されているとか

東山から縦走路と別れ、一気に尾根道を妙法寺駅へ下る　　正面に高取山

下り終えた東山登り口は　馬の背への谷をつめたすぐ東側

馬の背で遊びながら約1時間半ほどのハイキングでした

300
200
100
50
妙法寺駅
須磨アルプス登り口
馬の背直登谷入口
馬の背への谷筋
峠・鞍部
馬の背
東山
六甲全山縦走路
東山尾根道
東山登り口
須磨アルプス登り口
須磨アルプス 馬の背
妙法寺から須磨アルプス馬の背へ
直登の谷をつめる
2011.2.2011.2.23.
距離 3.043km
沿面距離 3.084km

横尾山側
北側
妙法寺からの谷
須磨月見山への谷
南側
六甲全山縦走路・須磨アルプス　馬の背
東山側

横尾山
812
横尾内
横尾一丁目
横尾二丁目
横尾三丁目
横尾四丁目
横尾五丁目
横尾六丁目

若草町から見る須磨アルプス　東山/馬の背/横尾山

若草町から見る須磨アルプス　東山/馬の背/横尾山

若草町から見る須磨アルプス　東山/馬の背/横尾山

若草町から見る須磨アルプス　東山/馬の背/横尾山

弥生3月　　春がもうそこまで

天満宮

山道には「相思鳥」が飛び出し　餌をつつく

綺麗な鳥ですが、野鳥でなく　外来種で駆除鳥に指定されているとか

春の日差しを受けて　きらきらと光る明石海峡
間もなく　春の風物詩　いかなご漁もはじまる

弥生3月　　春がもうそこまで